

第11号

3月・9月発行

八戸工業大学

同窓会本部事務局

TEL:0178-25-8027

FAX:0178-25-6183

物作り { 電子材料・物性 } は人作り (教育)

— 温故知新 —

電子知能システム学科 教授 増田陽一郎



私の研究はセラミックスの光学デバイスへの応用を目的としたものです。ホットプレス装置を用いて電気光学用セラミックスの開発研究を行いました。その成果を纏

果がロシアの材料物理学学会誌に数多く報告されていて、私はその文献の中から多くの有益な知見を得る事が出来ました。私達にとってその論文を読むことは密林の中から宝の山を掘り出す思いでした。

私は恩師東北大学工学部、電子工学科の和田正信教授の推薦により昭和四十七年三月に仙台の東北大学・電気通信研究所から八戸に赴任して参りました。

その後、私の研究テーマは、マイクロ波、非線形光学、強誘電体薄膜メモリ材料の研究へと進展して行きました。これはデバイスの小型集積化、低電圧駆動化、高周波化、高機能化の要求による技術革新の流れに沿うものであります。もう一つの研究は平成八年から五年間にわたって行った日本学術振興会、未来開拓学術研究推進事業研究、次世代人口物質・材料の探索的研究「誘電体薄膜の複合制御による高性能化と機能変換の多様化の研究」のプロジェクトリーダーを務めた研究であります。この成果は日本の不揮発性強誘電体薄膜メモリ(MRAMデバイス)の開発に大きな貢献をしており、今まで本学で遂行した研究の集大成として増田陽一郎研究業績論文集(1)・(2)に纏めました。

第一回生は機械工学科・産業機械工学科百名、電気工学科八十名を迎えて入学式が挙行されました。

またサンクトペテルブルグ大学の強誘電体研究グループの重鎮でもあり、精力的に材料・物性の研究をされておられました。その成

果がロシアの材料物理学学会誌に数多く報告されていて、私はその文献の中から多くの有益な知見を得る事が出来ました。私達にとってその論文を読むことは密林の中から宝の山を掘り出す思いでした。

術者教育認定機構(JABEE)の受審のために、改革室長として全学的事務処理や計画などに協力致しました。また、アメリカ・ウエスレー大学との語学研修を始め中国瀋陽工業大学、新疆大学と大学院後期博士課程の国際学術交流を進めました。その調印に法人や学内の有志の教職員と参加致しました。

このように本学は創立当時から初代学長小和田武紀先生の提唱された「良き技術は良き人格から生まれる」と言う教育理念により教育研究を行ってまいりました。私は研究室を持つて三十五年が経過し二百四十余名の卒業生を(学部学生、院生)を実社会に送り出しました。私は学生に独創的な技術により社会に貢献出来る事を目標に指導して来ましたが、卒業生は大学にとつて大きな宝です。技術革新は温故知新です。学校法人理事、大学改革室長、大学院電子電気専攻主任、電気電子工学科科長として本学の発展のために活躍の場を与えて下さった学校法人に心から感謝致します。

また私の為にご支援を下された卒業生、教職員の皆様に感謝致します。大学づくりに参加出来た事は私の青春を賭けた三十五年間のドラマでした。

八戸工業大学同窓生の集う会開催案内

例年八戸で開催しております「同窓生の集う会」は、今秋開催の予定で準備を進めております。同窓会報第12号(9月発行)で詳しくご案内いたしますので、お楽しみにお待ちください。なお、「平成19年度各支部同窓生の集う会」は本誌8頁で紹介しております。同窓生お誘い合わせの上ご出席くださるようお願いいたします。同封のハガキまたは、メール(必要事項記入の上)でお申込みください。

同窓生のこ子女、弟妹の入学金減免

本学の良き理解者であり最大の支援者である同窓生のご要望をもとに、ご父母の入学時の経済的ご負担を軽減すべく、同窓生のご子女、弟妹を対象に入学金の減免措置を実施しております。

同窓生各位の身近な方に八戸工業大学をお勧めして頂きたく、この減免措置を実施するものであり、是非、ご活用賜りますようお願い申し上げます。

対象・同窓生のこ子女、弟妹

●減免額・十七万五千円

▼お問い合わせ先

入試課 アドミッション・オフィス
▼電話番号
0178-25-8000(直通)

システム情報工学科 うみねこ会ネットワーク

平成十八年十月二十一日(土)

第四回うみねこ会が昼の部と夜の部の二回に分けて開催されました。昼の部では、八戸工業大学システム情報工学科棟の非常勤講師控室を会場に栗原学科長を始め多くの先生方と同窓生が参加し、卒業後の活躍ぶりを話題に旧交を深めました。



第四回うみねこ会開催！！



夜の部では会場を八戸市街のいわし屋に移し、さらに多くの同窓生と先生方が参加して大いに盛り上がりました。

第四期生近況報告

三八五流通株式会社

計算センターシステム開発課

平野 龍輝さん

現在、私は三八五流通計算センターシステム開発課に勤めています。私が勤めているところでの主な仕事は、電話対応とプログラム開発です。電話対応では各地に点在する店のパソコン・プログラムに関する問い合わせに対する

対応などをします。主に「パソコンが動かなくなった(フリーズ、もしくは故障した)」、「資料を印字するプログラムを起動させたときにエラーが起きてどうすればいいかわからない」と言った電話の対応です。

店所の人達には、パソコンに詳しくない人もいるので、落ち着いて丁寧に対応します。入社した頃は、電話対応も分からない事が多く、焦った対応をして相手方を待たせてしまい、上司や先輩方に叱られる事もありましたが、現在は慣れて落ち着いて対応できるようになってきました。

プログラム開発では、お金の流れに関したプログラム、主に会社の収入や経費などを計算しリストに印字するプログラムなどを作成しています。プログラム開発に関しては「COOL」と言う言語を使用しているので現在勉強しながら開発を進めています。電話対応もプログラム開発も勉強することが多く大変ですがこの会社で頑張っていきたいと思っています。

富士ソフト株式会社

榎本 匡将さん

私は富士ソフト株式会社に勤めています。今は半年ほどの制御系プロジェクトに参加しています。仕様書作成、プログラミ

ング、テストなどの作業を受け持ち、現在は納品の段階です。何をやるにもそのほとんどが初めてで、先輩からの指導を受け、作業をしています。工程に遅れや変更が無ければ定時に帰ることもありますが、夜遅くまで残業することもあります。辛いと感じるときもありますが、それでも上司に仕事の成果を認められたり、お客様に満足してもらえたりすると嬉しいし、努力した甲斐があったと感じます。

休日は趣味や勉強、また友人とスポーツをするなど、毎日休み無く忙しい日々を過ごしています。学校生活で学んできたことは社会生活をする上で非常に役立っています。特に仕事では、教わることも多いですが、今まで学んできた知識や技術を教えることもあります。それが信頼や自信になります。

会社には色々な知識や技術を持った人が多くいます。その人たちとコミュニケーションをとり、協力して問題を解決していくことは非常に重要なことだと思います。今日まで楽しい社会生活を送ってこれたのはお世話になった諸先生方のおかげです。これから夢や目標を達成できるようがんばります。

上越教育大学大学院

川村 理絵さん

八戸工業大学システム情報工学

科を卒業してからもうすぐ一年になります。八戸工業大学の先生方、共に学んだ同窓生の方々が経過でしょうか。

現在、私は新潟県の上越教育大学大学院で小学校の教員免許を取得するため学んでいます。八戸工業大学在学中に中学校技術や高校工業・情報の免許は取得しておりましたが、より学びを深めたいと思い教育大学の大学院に進学することに至りました。その際に学年担任である尾崎先生や研究室の小玉先生を始め、システム情報工学科の先生方に大変お世話になりました。お陰様で今こうして、忙しくも充実して学問や研究に打ち込むことが出来ます。

今日の教育現場ではキャリア教育に注目しており、私が所属した技術科でも「わくわく大学デー」や大学祭にて五軸制御のマシニングセンタを利用した一日体験学習やものづくり教室を行いました。その際、切削プログラム製作やマシニングセンタの制御などを担当し、八戸工業大学で学んだ知識と技術が役立っていることを実感できました。これから八戸工業大学で学んだことを教育の場で生かしたいと思っています。

それでは、大学の益々の御発展と同窓生皆様のご健勝を心から祈ります。

八戸工業大学学匠会通信

学匠会

副会長就任と挨拶

エネルギー工学科第一期生

浜部 弘毅さん

この程、八戸工業大学学匠会

副会長に就任しました浜部です。

元々、エネルギー工学科同窓会副会長でしたので、新たに就任という感覚ではないのですが、もともと副会長とは名ばかりで、この十年来、会合にも出席しておりませんでした。しかし、現在は青森県六ヶ所村で働いており、また、生物環境化学工学科同窓生との共同組織となり、気持ち新たに出来る限り協力して行きたいと思えます。

さて、卒業から二十年も経つと皆おじさんになってしまい、体調を崩した人、転職をした人、人生色々あります。私も体を壊し、転職し、昨年の春から青森県六ヶ所で働いています。東京から引越してきた当初は車が無くてもどにもならず、八戸に住む大学時代の友人に調達してもらうなど、何かと助けていただきました。人格がある程度固まった大学時代の友人は、何かと長い付き合いに為る

はずです、大切にしましょう。

最後に、久しぶりに観る八戸は発展していて、道に迷ってしまひ日の流れを感じました。

それでは、皆様のますますのご活躍をお祈りするとともに、学匠会へのご協力よろしく願いします。

エネルギー工学科第六期生

掛端 英二さん

同窓生の皆様如何お過ごしでしょうか。この度、八戸工業大学学匠会の副会長に就任しました六期生の掛端英二です。

私は卒業後地元企業に就職し二社経験した後、現在武輪水産(株)総務課係長として人事・労務全般の仕事に任せております。卒業してから早十六年が経過し時の速さに改めて驚いております。今思ひ起こすと学生時代はとても優雅で将来の事も深く考えずに毎日を過ごしていた様な気がします。

しかし仕事に就いてからは一変し社会の厳しさを痛切に感じたものです。私の場合、幸か不幸か一つの職種に留まらず今迄ではほぼ全職に渡り経験しました。お陰で数多くの苦い経験も味わいました。でもこのような体験が無ければ今

の自分は無かったでしょう。現在の職場は総務人事というところもあり学んできた事とは程遠いものですが、この仕事をしてから対人間という言葉が確かな答えの無い、ある意味一番難しい部署を任されているという事にやり甲斐を感じようになりました。

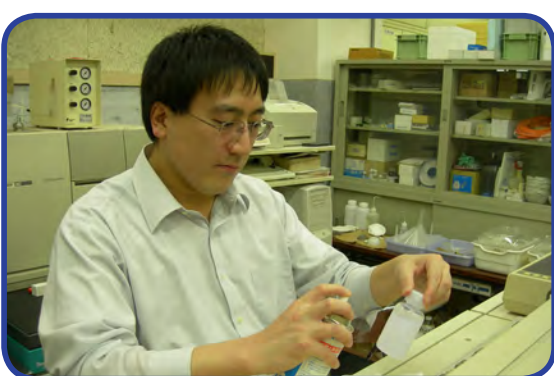
そもそも私はこの同窓会自体にも全く興味が無く、ただ過去を振り返りだけのメンタルクラブとしか思えず遠ざけていたのですが、現職についてからは様々な諸団体に所属させて頂く機会を得て考えが変わりました。現在は七、八団体に所属し近年八戸青年会議所へも入会し、数多くの人脈を得ることが出来ました。これらはどんなにお金を積んでも得られるものには無いのです。やはり人と人の繋がりが一番大切だと云う事を今更ながら判ってきたような気がします。

最近当校の同窓会に出席させて頂いておりますが、当学科の参加率は低く淋しい限りです。過去の懐かしさだけに浸るだけでなく、この会を通じて将来ビジネスに発展することもあるものです。何年か会っていない同窓生達が今は優れた人材になっているのも事実。もしかしたら偉大な人物は学生時代貴方の隣に居た人かも知れませんが、

エネルギー工学科第十七期生の島長義です。

平成十四年三月にエネルギー工学科を卒業した後、八戸工業大学の大学院「機械システム工学専攻」に進学しました。大学院の前期課程に二年、後期課程に三年間在籍しましたのでエネルギー工学科の頃から数えて九年間大学に在籍していました。私の人生の三分の一を大学で過ごしたことになります。

私はエネルギー工学科四年生の頃から六年間、村中 健教授の下で環境水中に含まれる水素の放射性同位体であるトリチウム(三重水素)の濃度測定に関する研究を行ってきました。現在は、学位を取得するための論文作成、研究活動の総まとめに精を出す毎日です。エネルギー工学科四年生の



『大学生生活を通じて』

エネルギー工学科第17期生 島 長義さん(福島県出身)

頃は、共同研究者であった同期の友人と二人で無我夢中に卒業研究を行っていたことが思い出されます。その頃は、勉強量が足りないため研究に関して曖昧な事柄が非常に多く、当時の感覚では霧の中にいるような感じでした。現在の私の視点であの頃を振り返ると自分が成長したことを実感します。大学院での活動において、研究成果の学会発表、学術誌への論文投稿を行うことが出来ました。これからの経験は、とても貴重で私にとって一生の思い出です。

私の研究は、八戸工業大学においてトリチウムの研究をされた先輩方の研究を引き継いだ物です。研究を進める中で先輩方のデータがとても参考になりました。貴重な研究成果を残して頂きました皆様、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

大学では、とても充実した日々を過ごすことができました。八戸工業大学で学んだことを今後の人生に活かせるように、これからも頑張っていきたいと思っています。

機械情報技術学科 蒼峰会だより

この度、本誌の執筆を依頼された。何

を書こうかと悩んでいたが、小生として

は本誌の役割の重要部分を「卒業生の、

『無形共有物』の構築と確認」と考えた

い。大学創立後、時代が経れば、人、記

念樹そして建物も変わる。しかし在学した

その時代に共有した「もの」は、その人

の意識の中に一生残る。その「もの」の

一つとして、大学を牽引した在学当時の

学長の姿は大きいのでないだろうか。小

生は自分が感じた歴代学長の一面を記

して、その任を果たしたと思うが、先ず、

小生の思い出からはじめる。

卒研究生、大学工場職員と一緒に二階の

Iビルを、建設材料を持ち運びながら

薦職まがいの作業をして、実験用足場で

ある二階半の空間を作った。鉄板が敷か

れた日、その足場に座って彼らと一緒に

食べた昼飯の味が忘れられない。その卒

研究生による実験装置の設計製図で小生の

学位論文は出発した。本学で始められた

実験研究で学位を取得した例が少なかっ

たせいか、学位取得後のある教授会で、

村上元学長が「このての教員には給料を

上げてやりたいが、おれにはその力がな

いんで、研究費の上積みのような形で応

えてやるしかない」と言われたことが有

難く、印象に残っている。

私が感じている歴代学長像

初代学長、小和田武紀先生：開学2年

目の昭和48年に、4、5人の若手就任

予定教員が学長室に招待された。その時、

「挨拶言葉なんか、うまくならなくとも



ことが強く心に残っている。

2代目学長、齋藤恒三先生：大学祭（現在の学園祭）実施に際し、伝統が浅いためか、学生の準備の進行がおもわしくないということが心配で「臨時教授会」を開くほど、真面目な学長であった。また、当時、機械系学科に対して不利な予算配分だったことに憤慨し、若気の至りで、三、四人の若手教員で学長室に押しかけた。「組織の長なら、家庭の親のように小さな、弱い者にほど、目をかけるべきでないか」との小生の愚問に対し、「うーん」と口ごもられたが、叱られなかった。今の時代なら「顔を洗って出直して来い」と言われかねないだろう。

3代目学長、門脇又男先生：是川の学長室に住んでおられた。その同じ敷地の教員宿舎に小生も住んでいた。ある朝、たまたま出勤時に出くわし、先生の公用車に拾われた。その車中での話である。何人かの教員を北海道大学に送り込んだせいか、なんとしても学位を贈らせて欲しいという申し出が同大からあり、そんなに言うならと思ひ、送電線の、碍子の洗浄に関する内容の研究をやって学位もらってあげた

機械情報技術学科 加賀 拓也先生の執筆

よ」と笑って話された。後で考えれば、当時、学位未取得の小生に、それとなく、はっぱをかけてくれたのかと有難く思った。ざつとばらんで謙遜な方であった。

4代目学長、淵澤定敏先生：先生は、小生が東北大学に助手として勤めた時の教授だったので、先生が本学に赴任されてからも同じ流体研究室を担当した。ある時、八戸の白浜海岸で研究室のコンパを持った。学生たちが魚市場で鯛を買ひ込み、浜で焚き火し、小枝で串を作って焼いた。焼き進むうちに魚が反る姿を見て思い出したのか、一人の学生が、「焼き場で、死体が反り返って来るんだよ」と語った。小生は咄嗟に何も言えなかったが、先生も黙っていた。後で考えると、あの時は小生が嗜めるべきだったなあと考えた。自分が今、あの頃の先生と同じ位の年齢に達している。

先生が学長に就任する前は、「どーもこの頃テレビばかり見てしまう、もし、ボケの気配を察したら諷めてなんとかしてくれ」と言う様な、弱気な一面を小生は覗いたような気がしたが、学長就任後は、毅然として大学・教授会運営に邁進された。

5代目学長河上房義先生：小生が学位を取得した時、論文謹呈とその報告に学長室に上がった。学位論文の価値は、それを形成する論文が掲載された論文集のランク、授与大学のランクにもよる旨のお話をされたことを憶えている。最近、河上先生が八戸市の聖ルカ教会に出席されていたことを偶然聞いたが、信仰の先輩として、この分野のことももっと多くお伺いし、学ぶべきだったと悔やんでいる。

6代目学長、村上孝一先生：この頃、小生は機械工学科（後の機械情報技術学

科）の学科長を拝命していた。ある日の早朝、同先生から突然、拙宅に電話があり、「新教員の就職依頼が来ているが君の科ではどうか？」ということであった。既にその教員の専門分野は充足していたので、学科長としてお断りした。学長を通しての、当時の八戸市長からの採用依頼であった。そのあと間もなく、同市長も参加した会合があり、その懇親会でのことである。部屋の中央に大きな花で飾られた宴卓があり、立食形式であった。あるコーナーで顔を伏せ気味にしてソバを食べている同先生を見つけた。話が例

の人事の件に及ぶと、「市長に会わないように花の陰に隠れて、彼から対角線の位置ののだけ食べて歩いてるんだ。」と真顔で語っていた姿が、妙に忘れられない。突然放ったユーモアであったのか。先生は、将来を有望視される若手に研究費を割き、研究水準の向上に真剣に心を砕かれた。

7代目学長、高橋燦吉先生：大学同士はその生存をかけて「戦場」で戦っていることや、大学、学科の経営には戦略が大切なことを幾々教えられた。また、「小から大までの種々の企画、重要な情報、戦略も時間の関数であり、タイミングが遅ければ、刺身がゴミになってしまう。やってみないと結果はわからないから、たとえ70点でも、やらないよりは、実行してみても、その後の展開にベストを尽くせば良い」ということを実践で示された。大学受難突入時代に、本学を奮い立たせた方であった。

またプライベートでは、小生の還暦も近づいた頃、生まれて初めてゴルフなるものを同先生から教わり、「真っ直ぐ打て！」と怒られながらも、200のハンディをもたらってなんと1ラウンド回れるよ

うになった。

こうした歴代の学長たちの示唆に富む激励の言葉に支えられながら八戸工業大学の30年の教員生活を送ることが出来た。

終わりに、これまで関わってきた方々の中でキラッと輝いていることを紹介して終わりたいと思う。小生が本学に赴任したその年、昭和49年に学生募集のため東北のいくつかの県をキャラバンした。その本学説明会が盛岡市のあるホテルで開催された。その時、招待した高校教員の無断欠席が多く、参加者が非常に少なかった。一人の同行した女子職員が、説明会場の廊下で人目をしのいで泣いていた姿を何気なく見てしまい、私学経営の厳しさを垣間見る思いがした。開学当初の頃で、大学臨時定員増施行以前に経験した学生募集の困難さであったが、今また「大学経営水河期」と言われる時代に遭遇しており、本学非常勤教員の小生を含め、本学教職員の更なる奮起が期待されているのではないかとと思う。

八工大を去るにあたって

機械情報技術学科 小野 陽教授

昨年七月に六十歳を迎えたのを機に、この三月末で退職することになりました。八工大に赴任したのが二〇〇〇年四月です。九七年勤務したことになります。顔を合わせた学生は今年一年のG06生から二〇〇〇年にドクター三年で、今も教員として八工大に勤務している高橋晋君も入れることになれば十五年ということになります。ですがこれは少し広げすぎで、授業、試験、実験、卒研などで四年間、しょっちゅう顔をあわせていたのはG00生か



らG03生までということになります。中でもG00、G01生で大学院に進学した人は六年間丸々重なっているのです、それぞれに思い出深いものがあります。まだ若くて同窓会に出るようなゆとりも無い年代かもしれませんが、どこかの会でまたお会いできるのを楽しみにしています。

院生がこの三月修了、私を採用していた高橋燦吉先生が昨年春におやめになる、同じく加賀先生が、今も非常勤講師としてご助力いただいています。ご退職なさるなど、いろいろな点で節目なのかなという気がしています。

卒研生としては97生が最初で今年のG03生までです。私が、環境が変わったのの良いことにロボットをやるなど言い出して、準備も無いまま学生諸君にいろいろ苦労してもらいました。昨年から二足受動歩行という研究を始め、今年

高き800mmのロボットに足踏みさせることが出来たので、私の勉強がもっと速く進んでいたら前の卒研生にももっと楽しんでもらえたのにと、申し訳なく思っています。

七年の最後の方では、担任の四年生が私にたいした面倒もかけずに卒業、就職していったり、学科が「土木」審査を受けて学生諸君の答案を一枚々々チェックされてひやひやしながらも高い評価を受けて認定を獲得したり、原子力学会の全国大会を八戸工業大学で開催し、アルバイ

環境建設工学科 シビル会通信

卒業生の近況報告



八戸工業大学にお世話になった六年と北海道大学での三年間という長い学生生活の後に今の私があります。その九年間に一般的に言われる土木関係の知識と衛生工学、特に生物を用いた環境浄化などの衛生工学を学びました。最近では環境を保全し回復させることが求められていて、会社

いであ(株) 環境創造研究所 環境リスク研究センター
中村吉志さん (H15年3月土木工学専攻 博士前期課程 修了)

でも環境と建設業との融和を考えているので、これから、土木工学の知識と衛生工学の知識をうまく絡み合わせ、新しい視点で意見を出して行きたいと思っています。そのためにも「多くの情報をインプットし、有用なアウトプットができる」(石田衣良)人間になろうと思います。もう一つ石田衣良さんの言葉を参考に。卒業し社会に出る方々、責任と義務を負う中での自由をお楽しみください。

また、修士や博士に進学をする方、これからも研究に携わり、専門的な知識を身につけ、社会に出るときに役立ててください。

県産産廃で

「田子研究室」設立

青森・岩手県産産廃不法投棄問題の支障撤去事業に関係し、現場で十数名の卒業生が活躍しています。遮水工、鉛直遮水壁、水処理施設の施工など、現地の環境修復・保全のため、日夜活躍しています。このたび、関係する卒業生のうち七名と福士先生が集まり、「田子研究室」を設立して懇談会を開催しました。



廃棄物の撤去は平成二十四年度まで続きます。長丁場で極めて困難かつ重要な業務です。大

学としても総力をあげてプロジェクト研究を実施し地元を支援しています。その代表責任者は庄谷学長(前環境建設工学科長)、全体の調整担当は福士教授が努めています。正に、八戸工業大学の環境建設工学科が現場を引っ張っています。卒業生の今後ますますの御活躍を期待するものです。

なお、今後も随時開催の予定で、次回は田子229ランドで泊り込み会を予定しています。希望者はぜひ御参加を。

卒業生との懇談会開催

九月三十日(土)に、卒業生との懇談会を開催しました。懇談会には、急な連絡にもかかわらず三十七名の卒業生および教員が参加くださいました。懇談会の前半は、「CIVILと学科の教育改革」と題した講演および意見交換が行われました。卒業生から頂いたア

CIVIL News, H. I. T. を開設!

環境建設工学科のホームページに新たに「Civil News, H. I. T.」を開設しました。本学科のニュースやイベントなどを随時更新していきます。同窓会情報も掲載していきますので、ご覧ください。なお、シビル会のホームページの開設を予定しています。楽しみにしてください。

URLは、<http://web.civil.hi-tech.ac.jp/jpn/news/> です。

アンケート結果および意見を参考に本学科の教育改革に活かしていきます。後半は、懇親会が行われ大いに盛り上がりしました。また席上、来年度の懇談会は「土木の日」十一月十八日(日)に行われることが決定しました。詳細が決まり次第、会報誌、学科ホームページおよびEmailにてお知らせします。

建築工学科 拓北会

**建築工学科卒業生。
在学生が資格取得！**

建築工学科の卒業生、在学生が次々と資格試験に合格しています。

在学学生では二〇〇三年以来、久しぶりに工業英検三級に三人が合格、卒業生では大学院修士二年の上さおりさんが二級建築士に合格しました。日頃からの努力が合格に結びついた、すばらしい結果です。

建築工学科では、建築士試験のための二級建築士対策講座を行うなど、資格試験に対する対応もこなっています。



大学を卒業し、盛岡の建築設計事務所に勤めて、十一年が過ぎようとしています。多様な仕事に携わり、建築づくりの苦しみと楽し

小針 智幸さん 平成八年 建築工学科卒（澤田研究室）

現在（株）アトリエ ノルド 建築工学科非常勤講師

二級建築士に合格して

建築工学専攻修士 二年

上さおり さん

昨年、二級建築士を受験し合格しました。今回は二度目の受験で、一度目は学科試験で不合格となった経験より、時間をかけて勉強しなければならぬと思いました。学科に合格すれば、実技試験は簡単だろうと思っていました。実際はそうではありませんでした。大学の製図を授業で毎回未完成で提出していた私にとって、四時間三十分の時間で、プランニングを

さを日々感じています。また、北東北で建築の仕事をしていると、八戸工大のOBの方々との出会いが多く、幅広い経験や技術力に助けて頂くことがあり、感謝しながら、同じOBであることを誇りに感じています。

さて、本年度より非常勤講師として、再び大学に通う機会を頂きました。久しぶりに恩師の先生とお話しさせていただくと、先生に教わるが多々あり、学生時代に戻ったようです。さらに、建築設計Ⅱのエスキスの指導をしながら、課題に向かう学生の姿に振れ

行い、四つの図面を完成させることは無理だと思いました。研究とアルバイトをしながら、日建学院で講義を受け、毎週提出される課題をこなすことは、非常につらいものでした。試験前日になっても製図のスピードが上がり、焦りましたが、本試験ではすべての図面を完成させることができ、合格することが出来ました。

二級建築士の資格を取得しても実務経験がないため、現場のことをはじめ、わからないことがたくさんあります。今春、建築会社に就職するにあたり、もっと勉強し、さらに上を目指して頑張りたいと思います。

会うことで、私自身を再考する機会を得ました。建築に対する好奇心や探求心に溢れ、疑いもなく真剣に取り組む学生のエネルギーの凄さに圧倒されました。私も、学生時代には、同じエネルギーを持っていたように思いますが、日々の仕事になれてしまい、そのエネルギーを失っていたようです。素直で真剣に学ぶことの大切さを、学生達から学びました。

これを機に、八戸工大の卒業生としての誇りを再認識し、学ぶことの大切さを忘れずに、さらに努力していきたいと思っています。

久しぶりの快挙

4名が工業英検合格

外国語特別演習（英語）

担当 高橋 康造助教

工業英検三級はこの四年間八工大から合格者を出しておらず、久しぶりにこの検定に直接関わる科目を担当することになった私は、当初は一人でも合格者を出せればという思いで授業に臨みました。十一月下旬に試験が行われることもあり、前期の正規の授業のほか「工業英検特訓ゼミ」という単位とは無関係の授業を急遽立ち上げ、その存在を全学の掲示板で知らせました。たつた四名の受講者を相手にしたゼミでしたが、週二回のペースで工業英検の最新問題を教材にしました。受講生にはわからない単語や熟語などはしらみつぶしに調べさせ、毎回宿題をいっばい出し、時折これについて小テストを行い、その結果をすぐにフィードバックするようにしました。

ともあれ、受講生は工業英検対策のために少なからず時間を割いたと思われます。そうでなければ合格は容易ではありません。工業英検の問題は、さまざまな分野の工業関連の英語が登場します。特に電気関係、化学関連は出題される率が高いようです。今回合格したのはすべて建築工学科の学生

ですが、建築関連の工業英語が出題されるのはまれです。こういった傾向の中で特訓ゼミに参加した建築工学科三年の学生三人が合格したことはやはり快挙といえるでしょう。

もう一人の合格者は、私の授業やゼミとはまったく無縁に、ほとんど独力でこの三級に合格しました。これまた建築工学科の学生で、しかも一年生が合格するという、まさしく輝かしい偉業を打ち立てました。

ゼミ参加の合格者は以下のとおり：生出和夫、大川原恵美、大久保早紀（以上三年生）

建築工学科 三年

大久保 早紀 さん

工業英検を受験するにあたって特に力を入れたことは、単語のボキャブラリーを増やすことでした。今まで習ってきた英語とは違い、工業英語は専門的な意味のある単語が多く、文章の文法的部分は理解できても、単語を知らないため全体の内容が掴めないことがほとんどでした。

単語力を身につけることを中心に、工業的知識も増やしていったことが合格につながったと思います。

電子知能システム学科 水交会ニュース

OB・OGだより

本学に入學し、電気電子工学の基礎から応用まで幅広く勉強することができました。

また、アルバイトも行なっていたので、社会人としてのマナーや行動力なども身に付きました。今思えば、大学は大人になるためのあらゆる勉強ができる場であったと思います。社会人になればもつと多くのことを学ぶ必要があります。

佐々木 陳光さん 平成19年電子知能システム学科卒業
就職先：東京電力株式会社

大きな夢を持ちつつも現実を見据え、自分は何が長所何が欠けているのか自覚しながら、「長い目でものごとをみる」ことを忘れずに日々精進していきたいと思っています。



特集記事「増田陽一郎先生のご退職に寄せて」(増田研究室卒業生)

都谷森 清さん
現在：株式会社弘前機械開発
代表取締役



昭和53年電気工学科卒業生

先ずは、「増田陽一郎先生、長らくご苦勞様でした。」

先日、最後の講義を末席で最後の部分だけでしたが公聴させていただき、三十年前の風景がふと頭をかすめました。当時は何でも一連の一コマまであったような気がします。増田先生の最終講義に出席した時は、三十年前の記憶とは別に一人の人間としての成熟という事をちよつとだけ見せていただいた様な気がしました。考えてみれば、私もちよつとだけ年月を経て来たのかも知れません。今の私の年齢は、増田先生が一生懸命教育・学問に大いに係わって富に熱い時であったと思います。第二次世界大戦が終わり、人の生き方が国家の制約無しに何でも選択できる時代を迎えた時に、増田先生は多感な青春時代から未だ混迷を続ける激動の日本で、様々な人々との出会い、自分で自分の生き方を選択して行く様

は、学問に対する興味と国家・社会への関わりを教育現場で整合性を持つ重要性を理解し、教育者たる学者を目指していたのではないかと勝手に思っています。

それ故に増田研究室は、「礼」「義」であり、指導していただいた感謝は「忠」で師に対して「信」でなければならぬのでありました。学生当時、人生未だ未熟であります若輩共は「礼儀中心」の甚だカビ臭い研究室だったのかもしれませんが、今はこのカビ臭いのが無くなるのは、冬の季節到来を予感させる冷たい木枯らしを連想いたします。

恩師であります増田先生は、「諸行無常」の世の中で、全てに対して学んでいかねければならない人間の姿勢を先生の師からも学び「礼儀中心」を持っておそらく出会う全ての人間に対して実践してきたのではないかと私は思えるのであります。特に、私の仕事で増田先生に相談し、我々の社会通念ではあり得ないくらい様々な人物を紹介いただき、色々な形で応援をいただく事が多々あり驚きが多い事も前述の確固たる実践に他ならないと思います。

未だ増田先生は元気でありますから、我々に未来を差し示していただけていると思います。

八戸工業大学電気工学科を卒業してから今年で二十六年になりました。増田先生から五年ほど前に「北海道に行くから、久しぶりに会わないか」と懐かしい声を聞き二十一年ぶりにお会いする事がありました。その時の印象は「まだまだ若い!」、学生時代にご指導を頂いた頃を思い出す程の若々しさがあり驚いた事が記憶に残っております。それから四年経った昨年、同窓生の集う会及び増田先生の喜寿のお祝いの会に出席した際、同期の卒業生と再会する事ができ、実に楽しい一年となりました。同期の卒業生は、腹が出てきて貫禄の出てきた者、髪の毛がかなり心配になってきた者など学生時代とはかなり風貌が変わり、一見では誰が誰やら分からなかったのが、時間を追うごとに学生時代を思い出し同期生と口を揃えて「増田先生は、俺たちみたいなおちこぼれ(当時八人中五名が勉強好きでした)を集めて良く面倒を見てくれたよなあ」と当時のことを振り返る事が出来ました。

大道 宏満さん
現在：株式会社きんてん北海道支社
工事部工事第二課長



昭和56年電気工学科卒業生

最後に、今年で五年目を迎える八戸工業大学同窓会北海道支部の支部長(現在二代目です)として同窓会の発展に微力ではありますが努力していきたいと思っています。八戸工業大学バンザイ!!!

退職教員

平成十九年二月二十八日付けで、次の方が退職されます。

福原長寿教授

生物環境化学工学科

平成十九年より勤務。

平成十九年三月三十一日付けで、次の方が退職されます。

豊田淳一教授

大学院特任教授

平成十年より勤務。

増田陽一郎教授

電子知能システム学科

昭和四十七年より勤務。

小野陽教授

機械情報技術学科

平成十二年より勤務。

穂山和男助教授

異分野融合科学研究所

昭和五十八年より勤務。

これまでのご厚情ご指導に感謝申し上げますとともに、今後のご健勝とご活躍を祈念いたします。

訃報

平成十九年二月二十五日

本学名誉教授 樋川 武男先生がご逝去されました。謹んでお知らせいたします。

(昭和六十年五月一日から平成六年三月三十一日まで、機械工学科に勤務。うち、昭和六十一年四月一日より教務部長を務める)

支部総会開催一覧

◎北海道支部

●開催日時

平成十九年五月十九日(土)

▼午後五時～幹事会

▼午後七時～総会

●会場 ロイトン札幌

札幌市中央区

北一条十一丁目

TEL 011-271-2711

●会費 五千元

●お問い合わせ

木田 年彦 氏

E-mail:hiko.k-p@jcom.ne.jp

◎北海道支部 道南分会

●開催日時

平成十九年四月十四日(土)

▼午後六時四十五分～総会

▼午後七時～会食

●会場 花水亭

函館市本町一〇二〇 第三セ

イコービル一階

TEL 0138-51-6655

●会費 四千元

●お問い合わせ

山本 浩道 氏

TEL 090-8903-7905

E-mail:h-yama@k-teito.co.jp

◎秋田支部

●開催日時

平成十九年六月二十三日(土)

午後六時から

●会場 協働大町ビル

秋田市大町三丁目二十四四

TEL 018-863-2111

●会費 五千元

※当日はゴルフコンペを計画して

●お問い合わせ

明珍 勲 氏

E-mail:myouchin@io.ocn.ne.jp

◎東北支部

●開催日時

五月二十六日(土)

午後六時半から

●会場 ホテルユニバース仙台

仙台市青葉区一番町

四丁目三二二

●会費 五千元

●特典 ビンゴゲームで景品付

●お問い合わせ

奈良坂 進 氏

E-mail:narasaka.susumu@

jp.panasonic.com

▼ご家族の方へ

年二回本誌同窓会会報をご送付いたしておりますが、ご家族の方が見て同窓生本人が見ていないことがあるようです。

お手数ですが、ご子女に了承いただき同封のハガキにご子女現住所等必要事項をご記入のうえ、ポストへご投函下さるようお願いいたします。

同窓会事務局から

または卒業年科)を連絡するようお願い下さい。また、現住所等変更になりましたら、速やかに同窓会事務局までご連絡下さるようお願いいたします。

▼同窓生のニュース募集

同窓会では、本誌に掲載する同窓生のニュースを募集しております。最近ではエネルギー工学科十六期生、阿部博明さんの第七十七回都市対抗野球全国優勝の記事を取り上げました。全国または身近でご活躍されている同窓生のニュースがありましたら、同窓会事務局までお寄せ下さい。

▼同窓生の皆様へ

会報が届かない、見たことがないといった同窓生がおりましたら、八戸工業大学同窓会事務局まで、電話またはメールで送付先(氏名、現住所、学籍番号

おかげさまで
創立 35 周年

同窓会事務局の連絡先(各種連絡先としてご利用ください)

本部事務局(学務部学生課)

TEL: 0178-25-8027

E-mail:dosokai@hi-tech.ac.jp

機械工学科・産業機械工学科・機械情報技術学科(機械情報技術学科事務室)

TEL: 0178-25-8010

E-mail:dosokai-m@hi-tech.ac.jp

電気工学科・電気電子工学科(電子知能システム学科事務室)

TEL: 0178-25-8020

E-mail:dosokai-e@hi-tech.ac.jp

土木工学科・環境建設工学科(シビル会事務室)

TEL: 0178-25-8067(8030)

E-mail:dosokai-c@hi-tech.ac.jp

建築工学科(建築工学科事務室)

TEL: 0178-25-8040

E-mail:dosokai-a@hi-tech.ac.jp

エネルギー工学科・生物環境化学工学科(生物環境化学工学科事務室)

TEL: 0178-25-8050

E-mail:dosokai-p@hi-tech.ac.jp

システム情報工学科(システム情報工学科事務室)

TEL: 0178-25-8080

E-mail:dosokai-i@hi-tech.ac.jp

八戸工業大学
地域情報メディアセンター
建設に向けてなお二層の
ご理解、ご協力を

「八戸工業大学地域情報メディアセンター」の建設資金の一部として、卒業生を初め関係各位から、貴重なご厚志を御寄せ戴き誠に有り難うございます。この事業を実現のためには、皆様からの一層のご理解、ご協力が不可欠であります。今後とも何とぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。

八戸工業大学学長 庄谷 征美
同窓会会長 白川 直人